

図書館通信

最上校図書委員会
No.2 4月18日



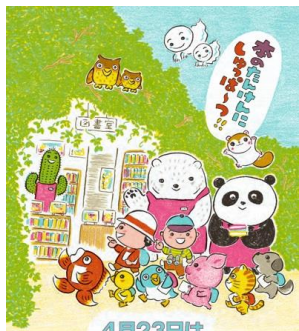
4月23日・子ども読書の日

「本のたんけんにしゅっぱ〜つ！！」

2024年4月23日~5月12日

第66回こどもの読書週間 「ひらいてワクワク めくってドキドキ」

広く子どもの読書活動についての関心と理解を深めるとともに、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高めるために、制定されました。子どもたちにもっと本を、子どもたちにもっと本を読む場所をとの願いから、誕生した取り組みで、子どもに読書を勧めるだけでなく、大人にとっても子どもの読書の大切さを考えましようという取り組みでもあります。ぜひ、この機会に本を読んでみましょう。



☆学校司書 高橋からのオススメ！

『決定版日本の給料&職業 最強DXリニューアル版』

あらゆる職業をファンタジー風のイラストにし、ゲームのような世界観に落とし込んで紹介、平均給料、仕事の内容・就き方などリアルな情報も掲載しています。e-sports 解説者、アウフゲーサーなど新職業大量追加&イラストの一部リニューアル

で掲載職業数は過去最多の540種。誰が読んでも楽しめます。

『最高の職業と進路が見つかるガイドブック』

やりたいことがわからない高校生のための 最高の職業と進路が見つかるガイドブック。



読書週間！ オススメの本！

★図書館から、いろいろなジャンルのオススメの本を紹介します。

『プロの履歴書からわかる生きものの仕事』

生きものの仕事のなり方、プロの仕事人が教えます！

『知りたい気持ちに火をつけろ！』

学校図書館は探究学習の強い味方。

『僕たちの部活がなくなる？』

『だったら自分で放課後をデザインしよう！』

部活動の今と放課後の未来を考えるスタートブック。

『大谷英語』

大谷選手の魅力も読み解きながら、英語も学べて、写真集としても楽しめる！三刀流の「大谷参考書」！

『スマホアプリはなぜ無料？』

なぜ世の中には無料で使えるサービスがあるのか？

10代のうちから絶体に知っておくべきお金の仕組みが、身近な事例から楽しくわかりやすく学べる！

『もう迷わない！』

『どの政党に投票すればいいか決められる本』

本書では、投票はもちろん、政治や選挙に関する疑問や悩みに、専門的で難しい言葉を省いて答えました。

『農はいのちをつなぐ』

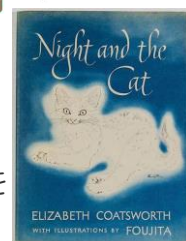
人間が多くいのちに育まれて生きている、そんなあたりまえのことに気づかされる1冊。

『小さいエネルギーで暮らすコツ』

熱エネ自給が楽しめる手づくり薪ストーブなど、農家の痛快なエネルギー自給暮らしに学ぶ。

『夜と猫』

猫を深く愛した二人の創造者が生んだ幻の名著が、70年の時を超えて現代に甦る。すべての猫を愛する、詩を愛する、藤田嗣治の作品を愛する人々へ贈る。



※ぜひ、図書館へ

読書週間！ オススメの最新刊！



『方舟を燃やす』 角田光代著

飛馬と不三子、縁もゆかりもなかった二人の昭和平成コロナ禍を描き、「信じる」ことの意味を問いかける傑作長篇。

『そしてレコードはまわる』 ヤマモトショウ著

アイドルの失踪騒動、デビューの意思を持たない天才ストリートシンガー。音楽を愛する全ての人におくる、音楽業界連作ミステリー。

『怖いトモダチ』 岡部えつ著

16人のさまざまな証言をもとに、女の正体にせまる1作。女は一体何者で、なぜ嗅ぎ回られているのか？読めば読むほど謎が深まり、ゾッとするラストは頭から離れない。「怖いトモダチ」、ひょっとしたらあなたの隣にもいるかもしれませんよ？

『国家を作った男』 宮内悠介著

21世紀前夜にアメリカで大ヒットしたゲーム「ヴィハーラ」。国民的ゲームの裏側にいたのは、一人の孤独な男、ジョン・アイヴァネンコ。彼がアメリカンドリームを掴むまでに一体何があったのか、そしてそれでも拭い去れなかった孤独の影にあったものとは。

やがて「国歌」とまで謳われるほど膨れ上がった「ヴィハーラ」音楽の作曲家。その生涯を描いた一遍をはじめ、13篇を収録。

『川のある街』 江國香織著

はかなく移りゆく濃密な生の営み。人生の三つの〈時間〉を川の流れる三つの〈場所〉から描く、生きとし生けるものを温かく包みこむ慈愛の物語。〈場所〉と〈時間〉と〈生〉を描いた三編を収録。

『令和元年の人生ゲーム』 麻布競馬場著

部下への接し方に持ち悩みの尽きない方々からは「最強のZ世代の取扱説明書だ！」とも。「あまりにリアル！あまりに面白い！」と、熱狂者続出中の問題作。

『spring』 恩田陸著

稀代のストーリーテラーが辿り着いた最高到達点＝バレエ小説。

『殺める女神の島』 秋吉理香子著

リゾートアイランドに集められた、外見と内面の美を競い合うコンテストの最終候補者。主催者が、二日目の朝、瀕死で見つかった。次々と殺人が起きるなか、巧妙に隠された参加者たちの「嘘」も明らかになっていく。この中で、一番嘘つきの殺人鬼は誰？最高に後味の悪いイヤミス長編！

『さろめの断頭台』 夕木春央著

天才芸術家の死、秘密を抱えた舞台女優、盗作事件に贗作事件、そして見立て殺人。未発表の絵を、誰がどうして^{ひょうせつ}剽窃したのか？盗作犯を探すうちに、井口の周りで戯曲『サロメ』に擬えたと思われる連続殺人が発生して？

『あいにくあなたのためじゃない』 柚木麻子著

いまは手詰まりに思えても、自分を取り戻した先につながる道はきっとある。この世を生き抜く勇気がむくむくと湧いてくる、全6篇。

『しんがりで寝ています』 三浦しをん著

いくらなんでもアホすぎる一冊に仕上がってしまったが、本書をお読みになるあいだ、もし少しでも楽しい気持ちになっていただけたなら、うれしいです。

『アルプス席の母』 早見和真著

主人公は選手から母親に変わっても、描かれるのは生きることの屈託と大いなる人生賛歌！

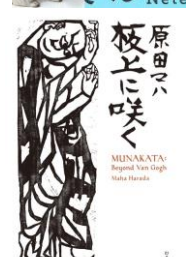
かつて誰も読んだことのないまったく新しい高校野球小説が、開幕する。

『ここはすべての夜明けまえ』 間宮改衣著

何もかも手遅れで、何もかも破綻していて、だからこそ優しく。約100年前、身体が永遠に老化しなくなる手術を受けるときに提案されたことだった。

『板上に咲く』 原田マハ著

墨を磨り支え続けた妻チヤの目線から、日本が誇るアーティスト棟方志功を描く。感涙のアート小説。



※ぜひ、図書館へ！